

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察情報について

令和6年度病害虫発生予報第6号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 病害虫発生予報第6号 (予報期間：9月上旬～9月下旬)

### 予報内容

#### 大 豆

**葉焼病**の発生は**やや多**と予想される。病原菌は風雨によって飛散する。発病を認めたら直ちに防除する。

**フタスジヒメハムシ**の発生は**多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

**カメムシ類**の発生は**多**と予想される。子実肥大期の防除を徹底する。

**ハスモンヨトウ**の発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

#### 果 樹

**カキ炭疽病**の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

**果樹カメムシ類**の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

#### 野菜・花き

**軟腐病**の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

**ネギ黒斑病**の発生は**やや多**と予想される。予防防除を徹底する。

**アザミウマ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、コナガ**の発生は**多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**ネギハモグリバエ、アブラムシ類**、の発生は**やや多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

<p>※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止を徹底する。</p>
---------------------------------------------------------------------

## — 気 象 予 報 —

1 か月予報 (令和6年8月29日付け 新潟地方気象台)

予報期間 8月31日～9月30日

[確率予報]

気 温	低い	10%	、	平年並	20%	、	高い	70%
降 水 量	少ない	30%	、	平年並	30%	、	多い	40%
日照時間	少ない	30%	、	平年並	40%	、	多い	30%

[概要]

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・8月31日(土)～9月6日(金)  
台風10号の影響や前線の影響を受けやすいため平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・9月7日(土)～9月13日(金)  
天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため平年に比べて晴れの日が多いでしょう。
- ・9月14日(土)～9月27日(金)  
天気は数日の周期で変わるでしょう。

注 1) 発生量は平年比。  
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、  
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

## 1 大豆の病害虫

### 葉焼病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 病原菌は風雨によって飛散する。発病が認められたら、直ちに防除を行う。

### ハスモンヨトウ

発生時期	8月下旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

### フタスジヒメハムシ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

### カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 子実肥大期の防除を徹底する。

### ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期に防除を実施する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 2 果樹の病害虫

### ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

### リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

### リンゴ褐斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

### カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

### 果樹カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 予察灯への誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 園内への侵入が確認され次第速やかに薬剤防除を行う。

### ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)

- 防除上の注意事項 (1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。  
 (2) 発生源となる下草を刈りとった後に防除する。

### 3 野菜・花きの病害虫

#### 軟腐病

- 発生時期 連続発生  
 発生量 多  
 予報の根拠 (1) 現在の発生はやや多 (+)  
 (2) 気温は高い (+)  
 (3) 降水量はほぼ平年並 (±)  
 防除上の注意事項 (1) 傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

#### ネギ黒斑病

- 発生時期 連続発生  
 発生量 やや多  
 予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)  
 (2) 気温は高い (+)  
 (3) 降水量はほぼ平年並 (±)  
 防除上の注意事項 (1) 予防防除を徹底する。

#### ネギハモグリバエ

- 発生時期 連続発生  
 発生量 やや多  
 予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)  
 (2) 気温は高い (+)  
 防除上の注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。  
 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

#### アザミウマ類

- 発生時期 連続発生  
 発生量 多  
 予報の根拠 (1) 現在の発生はやや多 (+)  
 (2) 気温は高い (+)  
 防除上の注意事項 (1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### アブラムシ類

- 発生時期 連続発生  
 発生量 やや多  
 予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)  
 (2) 気温は高い (+)  
 防除上の注意事項 (1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

#### シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### コナガ (アブラナ科 : ダイコン、ブロッコリーなど)

発生時期	増加期は9月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。